

第11号 グリーンス川越

編集人
川口けいすけスマトラ沖地震・津波緊急支援の
街頭募金活動を行いました！

1月30日、クレアモール商店街丸広百貨店前にて、総勢13人で緊急募金活動を行いました。

集まった募金63,665円は全額ユニセフに寄付致しました

被災地の現状

2004年12月26日に発生した地震による大津波は、インド洋沿岸地域一帯に大きな爪跡を残しました。IMF(国際通貨基金)によれば、死者・行方不明者は30万人、被災者は160万人にのぼり、被災した7カ国の復興には5年間で少なくとも7700億円が必要と推定されています。

現地では、ショックから口を閉ざしていた孤児からも当時の話が出るようになり、家族の捜索も続いています。アチェ州などでは遺体収容だけでも後2ヶ月はかかると言われています。

地震発生前から危機に瀕していた子どもたち

今回スマトラ沖で被災した国々は震災前から貧しい国が多く、新たに200万人の人が1日1ドル以下で暮らす「貧困層」に陥るとの分析があります。ソマリアなどは内戦による治安の悪化から、暫定政府すらもケニアに逃れているような状態で、国連やNGOによる支援も難航しているとのことです。政治権力の空白となった地域を狙い、犯罪組織が子供をさらい売り飛ばしたり、兵士にするといった事態も起きており、1日も早い国家の安定が望めます。

日本でも阪神大震災の被災者で元の生活に戻れた方は、10年が過ぎた今でも60%余りだそうです。今回、被災者の半数は子供だった事を考えても、緊急支援だけではなく、今後も継続した国際支援がなければ、子供たちの10年後はまだ暗いままかもしれません。

	インドネシア	ソマリア	スリランカ	ミャンマー
5歳未満児死亡率 *1	41	225	15	107
予防接種を受けていない子ども *2	30%	60%	1%	23%
きれいな水を利用できない子ども	22%	71%	22%	20%
基礎的な衛生設備を利用できない子ども	48%	75%	8%	27%
低体重の子ども(5歳未満) *3	26%	26%	29%	35%

出典：『世界子供白書』2005年度版

*1, 5歳未満児死亡率：出生1,000人あたり、1年間に亡くなる5歳未満の子どもの数。
(最も社会状況を表す指標。日本は4で世界最高水準。米8・仏6・韓5)

*2, 3種混合予防接種普及率(5歳未満児)のデータから(ジフテリア、百日咳、破傷風)

*3, 「低体重」の定義：年齢相応の体重を持つ基準集団の体重の中央値の80パーセント未満の体重しかない子ども(5歳未満)。データ期間は1995～2003年。タイを除く。